

全国学力・学習状況調査に向けて 「学力向上担当者等研修会」等から

学校教育課通信

平成27年2月20日(金) 第109号

編集・発行：県南教育事務所 寺木 誠伸

先日開催した第2回学力向上担当者等研修会における協議では、「学力向上マネジメントワークシート」を活用して今年度の各校の学力向上に向けた取組の検証を行い、ファシリテーション・グラフィックの手法を用いて、次年度各校で有効と思われる手立てを探りました。

また、各校の学力の実態分析と指導法の改善を図ることを目的としている県学力調査の結果が1月末に発表されました。各学校での分析を生かし、目の前の児童生徒一人一人への支援策を早めに講じることが大切です。

「今、何をすべきか」。研修会や県学力調査の分析をすぐに生かしましょう。

次号では、県学力調査の域内の各教科の分析、その対策についてお知らせいたします。

【ショートスパンでの取組を】

- ① 目の前にいる子どもたちの当該学年での学習内容の習熟度の点検と弱点補強を行い、進級させましょう。
- ② フォローアップシート等を活用し、実施時期を工夫して弱点の補強を行いましょう。
 - ・家庭学習の工夫
 - ・春休みの課題の工夫 等
- ③ 授業の進捗を確認し、全ての単元領域で年間指導計画を完結できるように調整しましょう。
- ④ 福島県学力調査の分析を生かしましょう。
 - ・授業、研修の改善へ
 - ・学力向上グランドデザインの改善へ
 - ・教育課程の改善へ 等

【福島県教育委員会の施策の活用を】

- ①フォローアップシートの活用
- ②学力向上チェックシートの活用
- ③授業改善「定着確認シート」の活用

- 問題に挑戦させるだけでなく、出題の意図を理解し、授業改善に生かしましょう。

④学力調査分析支援ツールの活用

- 平成27年度全国学力・学習状況調査後には、自校採点をして、結果を入力しましょう。
 - そのために、児童生徒の解答用紙をコピーしておきます。
 - 定着確認シートと同じように、データを入力すると、データをアップした学校の平均正答率が県平均として計算されます。
(文部科学省より結果が送付された8月下旬以降は、データが切り替わります。)

【平成27年全国学力・学習状況調査について】

〈調査実施日〉平成27年4月21日(火)

〈時 間 割〉

小学校		中学校	
1時限目	国語A(20分) 算数A(20分)	1時限目	国語A(45分)
2時限目	国語B(40分)	2時限目	国語B(45分)
3時限目	算数B(40分)	3時限目	数学A(45分)
4時限目	理 科(40分)	4時限目	数学B(45分)
	児童質問紙 (20分程度)	5時限目	理 科(45分)
			生徒質問紙 (20分程度)

(質問紙は「理科」終了後以降に、各学校の状況に応じて実施)

**小・中学校共に理科が実施されます。
(3年に1度の悉皆です。)**

【ファシリテーション・グラフィックの活用について】

「ファシリテーション・グラフィック」とは、会議や話し合いの進行を記録する手法の一つで、一言で言うならば、工夫が凝らされた「板書」です。

相手の発言の趣旨を理解したり、正確に記述したりするなどの力が高まり、我々に必要とされるコーディネート力を高めることにもつながります。メリットとしては、「論点が明確になる」「発想を刺激する」「成果に対する共通認識を持つことができる」「自分の発言が位置付けられる」などが挙げられます。

右の写真は先日の研修で実際に行った「ファシリテーション・グラフィック」です。是非、校内研修等でも活用してください。



【平成27年全国学力・学習状況調査について】

〈調査実施日〉4月21日（火）

〈調査目的〉○ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○ 学校における児童生徒への教師区指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

〈時間割〉

○小学校

小・中学校共に理科が実施されます。

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	
国語 A (20 分)、算数 A (20 分)	国語 B (40 分)	算数 B (40 分)	理科 (45分)	児童質問紙 (20 分程度)

○中学校

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	
国語 A (45 分)	国語 B (45 分)	数学 A (45 分)	数学 B (45 分)	理科 (45分)	生徒質問紙 (20 分程度)